

平成26年度
外部評価報告書

平成27年3月
八街市行財政調査会

1. 外部評価の目的

八街市が実施する行政評価において、行政内部による事務事業評価に外部の視点を加え、評価における客観性や透明性を確保し、事務事業の改善を推進することを目的に外部評価を実施しました。

2. 外部評価員の構成

八街市行財政調査会の職務に基づく外部評価であり、八街市行財政調査会は学識経験者及び市民代表で構成しています。

「八街市行財政調査会委員名簿」

役職名	氏 名	所 属 等
会 長	関 谷 昇	学識経験者（千葉大学准教授）
副会長	京 増 良 男	学識経験者（元八街市監査委員）
委 員	土 田 宏 昭	学識経験者（元千葉県職員）
委 員	林 田 博 之	学識経験者（元富里市職員）
委 員	治 部 登美子	市民代表（市民団体共同代表）

3. 外部評価の流れ

（1）評価対象事務事業の選定

行政内部において、「八街市総合計画2005」第2次基本計画における主な計画事業を対象に188事業の評価が実施されています。

この内部評価結果を確認したうえで、外部評価を実施すべき事業を各委員が1事業選定する形で、5事業を選定しました。また、事務事業は、まちづくりのテーマである「八つの街づくり」に基づいて体系付けられているため、「八つの街」の区分から各1事業を選定する形で8事業を選定しました。

なお、事業の選定にあたっては、必要に応じて施策単位での選定を行いました。

この結果、図表1のとおり13項目（22事務事業）を選定しました。

図表1 外部評価対象事務事業選定結果（評価実施順）

番号	事務事業名	担当部署
1	①公共下水道【汚水】の整備	建設部 下水道課
2	②地域ブランドの普及	経済環境部 商工課
3	③電算システムの更新、再編	総務部 情報管理課
4	④消防機庫の整備 ⑤消防自動車の更新 ⑥自主防災組織の設立支援	総務部 防災課
5	⑦交通安全施設の整備	総務部 防災課
6	⑧防犯灯の設置と適正な維持管理	総務部 防災課
7	⑨道路の排水機能の向上 ⑩道路の維持補修	建設部 道路河川課
8	⑪子育て支援センター機能の充実 ⑫児童クラブの充実	市民部 児童家庭課
9	⑬コミュニティ活動への支援 ⑭活動拠点の支援 ⑮自治組織の見直しと地域自治制度の強化	総務部 総務課
10	⑯バス路線の維持の要請 ⑰ふれあいバス運行事業の充実	総務部 企画課
11	⑱市民との協働 ⑲市民参画協働条例の策定	総務部 企画課
12	⑳家庭教育の充実 ㉑家庭教育の支援	教育委員会 学校教育課 教育委員会 社会教育課
13	㉒地域に開かれた学校づくりの推進	教育委員会 学校教育課

(2) 担当課ヒアリング及び評価作業

①事業概要等の説明（10分）

担当課から、事務事業評価シートに基づいて、事業概要・進捗状況・内部評価結果等の説明を受けました。

②質疑応答（20分）

事業概要等の説明や資料から読み取れない部分は、「質問書」によるやり取りや質疑応答により疑問点等を解消しました。（質疑応答終了後、担当課は退席）

③評価（30分）

ヒアリングの結果を踏まえ、各事業の今後の方向性等について議論し、評価を行いました。

4. 会議の開催経過

平成26年度八街市行財政調査会の開催日及び主な内容は、図表2のとおりです。

図表2 平成26年度八街市行財政調査会の会議日程

開催日		主な内容
第1回	平成26年6月25日(水)	・外部評価の進め方とスケジュールについて ・外部評価対象事務事業の選定方法について
第2回	平成26年8月8日(金)	外部評価対象事務事業の選定
第3回	平成26年10月9日(木)	・担当課ヒアリング及び評価作業 (番号1～3)
第4回	平成26年11月27日(木)	・担当課ヒアリング及び評価作業 (番号4～6)
第5回	平成27年1月9日(金)	・担当課ヒアリング及び評価作業 (番号7～9)
第6回	平成27年2月6日(金)	・担当課ヒアリング及び評価作業 (番号10～13)
第7回	平成27年3月20日(金)	・外部評価報告書の提出 ・「榎戸駅施設整備事業」ヒアリング

5. 外部評価結果

事業の方向性を、「事業継続」、「事業廃止・休止」、「事業完了」の選択肢の中から判定しました。なお、「事業継続」と判定した事業については、さらに「拡充」、「現状維持」、「見直し・改善」、「縮小」の選択肢の中から判定を行いました。

この結果、4つの事業を「事業継続」で「拡充」、1つの事業を「事業継続」で「現状維持」、9つの事業を「現状維持」で「見直し・改善」、1つの事業を「事業継続」で「縮小」と評価しました。その概要は、図表3のとおりです。

また、評価の過程における委員の主な意見、事業の方向性に関するコメントは図表4の番号1から13のとおりです。

図表3 外部評価結果（一覧）

番号	事務事業名	外部評価結果	主な意見等
1	①公共下水道【汚水】の整備	事業継続 － 見直し・改善	5 ページ参照
2	②地域ブランドの普及	事業継続 － 見直し・改善	6 ページ参照
3	③電算システムの更新、再編	事業継続 － 拡充	7 ページ参照
4-1	④消防機庫の整備 ⑤消防自動車の更新	事業継続 － 見直し・改善	8 ページ参照
4-2	⑥自主防災組織の設立支援	事業継続 － 拡充	9 ページ参照
5	⑦交通安全施設の整備	事業継続 － 見直し・改善	10 ページ参照
6	⑧防犯灯の設置と適正な管理	事業継続 － 縮小	11 ページ参照
7	⑨道路の排水機能の向上 ⑩道路の維持補修	事業継続 － 見直し・改善	12 ページ参照
8	⑪子育て支援センター機能の充実 ⑫児童クラブの充実	事業継続 － 拡充	13 ページ参照
9	⑬コミュニティ活動への支援 ⑭活動拠点の支援 ⑮自治組織の見直しと地域自治制度の強化	事業継続 － 見直し・改善	14 ページ参照
10-1	⑯バス路線の維持の要請	事業継続 － 現状維持	15 ページ参照
10-2	⑰ふれあいバス運行事業の充実	事業継続 － 見直し・改善	15 ページ参照
11	⑱市民との協働 ⑲市民参画協働条例の策定	事業継続 － 拡充	16 ページ参照
12	⑳家庭教育の充実 ㉑家庭教育の支援	事業継続 － 見直し・改善	17 ページ参照
13	㉒地域に開かれた学校づくりの推進	事業継続 － 見直し・改善	18 ページ参照

図表4 外部評価結果（事業別）

番 号	1
事務事業名	公共下水道【汚水】の整備
委員の主な意見	<ul style="list-style-type: none"> ・受益者負担金の一括納付奨励金については、他の自治体で廃止しているところもあるので、廃止について検討すべきだと思う。 ・財源を確保するため、都市計画税を制限税率まで引き上げる必要があるのではないか。 ・外部の意見を取り入れながら、継続して下水道事業について審議していくため、下水道審議会の設置が必要だと思う。 なお、設置にあたっては、上水道の審議会と併せて上下水道審議会として設置すべき。 ・線引きについて1審議会ではどうこうできないが、都市計画全体に弊害があると思われることから、線引き・区域の見直しをすべきと進言したい。
事業の方向性	<p> <input checked="" type="checkbox"/> 事業継続 <input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 現状維持 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し・改善 <input type="checkbox"/> 縮小 </p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p> <input type="checkbox"/> 事業廃止・休止 </p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p> <input type="checkbox"/> 事業完了 </p>
事業の方向性に関するコメント	<p>下水道事業において抱えている問題は、区域の見直し、線引きの見直しも含めて、八街市の都市計画をどのように考えていくのかという議論にたどりついてしまうので、下水道事業の問題だけではなく、全体的な部分から見直しをしないこと、抜本的な改善の方向性が見いだせないことから、下水道事業については、都市計画事業全体を含めて検討見直し願いたい。</p> <p>なお、都市計画事業の財源を確保するため、都市計画税の税率を上限まで引き上げること及び受益者負担金の一括納付奨励金の廃止を検討する必要がある。</p> <p>また、下水道審議会については、上水道と併せた形での上下水道審議会の設置を検討する必要がある。</p>

図表4 外部評価結果（事業別）

番 号	2
事務事業名	地域ブランドの普及
委員の主な意見	<ul style="list-style-type: none"> ・PR活動も年々件数が増えており、地域ブランドの普及については非常に努力されている。いい流れができつつある。 ・市民みんなが、「PRをやっていくんだ」というようなことを意識づけられるように、市のがんばりを市民に知ってもらうことも必要。がんばって大きな力に繋げてほしい。落花生を主としつつ野菜も、観光にも繋げてもらいたい。 ・市内の飲食店で必ず落花生をお通しで出すとか、これだけのお店があるので市内で利用するやり方もあるのでは。街ぐるみでやれば多少の効果があるのではと思いました。 ・商工会議所との連携をもっと強化してほしい。 ・地域ブランドのいろいろな動きを見てみると、いろいろな方を巻き込んでやっていく動きと、関係者だけでやっていた動きとでは雲泥の差がある。この辺は、どのような発想をもってやっていくかは、今後の展開を占う非常に大きな部分かと思いました。 ・落花生を中心に野菜等を含めて幅広くPRし、拡充の方向であるのはいいと思いますが、話を聞いて思ったのは、非常に動きが限定的すぎるという印象で、落花生育成事業であればこれでいいが、地域ブランドとうたってやっていく以上、今のようなやり方とか発想では圧倒的に不足している。いろいろな方を巻き込むということ自体が難しいというのがあると思う。ブランド化というのは、そこを越えていかないといけないので、その辺をいろいろ拡充していけるとかなり動きが広がるかなと思います。 ・八街市落花生推奨協議会のパンフレットの中で、西村郡司さんのことだとか、景色のいい南部の根古谷のことだとかをパンフレットに入れることをぜひ、やってほしい。
事業の方向性	<p>■ 事業継続</p> <p>□ 拡充 □ 現状維持 ■ 見直し・改善 □ 縮小</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>□ 事業廃止・休止</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>□ 事業完了</p>
事業の方向性に関するコメント	<p>落花生を中心に野菜を含めて幅広くPRを行っていることについては評価できるが、動きが限定的すぎる面があるため、各方面と連携・協力しながら内容面の拡充をしていく必要がある。ただし、それに比例して予算規模も拡充していくことは難しいため、この事業を拡大させていくのがいいのか、組織を横断的な別な形にした方がいいのか、ということを含めて全体的に見直し改善を行う必要がある。</p>

図表4 外部評価結果（事業別）

番 号	3
事務事業名	電算システムの更新、再編
委員の主な意見	<ul style="list-style-type: none"> ・必要な台数のパソコンが整っていないと、入力を待って残業とかになってしまい、電算が事務の効率化を図るものなのに、効率化が図れないという逆行する事態が起きてしまう。それは避けるべきであり、人件費に影響が出てくる話なので、早く台数を確保すべきだと思います。 ・市民にとって、パソコンが無いので事務が停滞するという話は困ります。商売道具ですから、無いなんてことは聞きたくないです。なにをさておいても整備して、市民サービスに早く貢献するという考え方をもってもらわないと、担当と財政とのやりとりで終わってしまう可能性がある。そこは、もっと大きな目で見てほしい。 ・パソコンの必要台数を、今から精査すると資料にあるが、既に把握しておくべき内容ではないか。 ・必要だというのはわかるが、結局は優先順位と、どういうところから増やしていくという見通しが必要。単に一人一台が結論ありきではなく、どれくらい必要なのか、どれくらい残業が増えているかまでは、明らかにすることができかどうかはわかりませんが、どういうところから充当していく必要があるのかの見通し、計画。これをもって財政とのやりとりが必要となる。
事業の方向性	<p> <input checked="" type="checkbox"/> 事業継続 <input checked="" type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 見直し・改善 <input type="checkbox"/> 縮小 <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <input type="checkbox"/> 事業廃止・休止 <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <input type="checkbox"/> 事業完了 </p>
事業の方向性に関するコメント	<p>業務に支障が出るため早急にパソコンの整備が必要だが、ただやみくもに一人一台といってもそれは説得力がない。このため、状況を精査し、どのような優先順位で拡充していくのか、という見通しを明確にしたうえで、真に必要な台数を整備する必要がある。</p>

図表4 外部評価結果（事業別）

番 号	4-1
事務事業名	消防機庫の整備、消防自動車の更新
委員の主な意見	<ul style="list-style-type: none"> ・消防団については、常備消防ができる以前から分団数が変わっておらず、再編がされていない。また、各地区からは消防団員がいなくて困っているという声が聞かれ、長年、消防団員で貢献された方が再入団しなければならないということも多くある。こういう状況に鑑みると、分団を統廃合して合理化を図っていく必要があると思う。 ・消防団の実数と定数に150人ぐらいの開きがあり、公務災害事務等に要する負担金の計算方法が定数を用いているため、架空の150人分の負担金を支払っており、これは大きな問題であり、消防改革が必要。 ・定数が埋まっていることを前提に仕組みが作られているので、定数の考え方、充足の考え方の中で、市町村が声をあげていかなければ変わらない。 ・分団の統廃合といった合理化も必要だが、消防力が確保できるか心配な面もあり、また、地域の繋がりといった役割にも配慮してほしい。 ・かなり厳しい財政状況の中で合理化を図っていく必要があるわけですから、どういう要素をもって消防力というのか整理していかなければならないと思いますし、それを踏まえて、何をもちょうろ街市の消防力と捉えていくのかは、統廃合を検討する際には、相当問われてくると思う。
事業の方向性	<p> <input checked="" type="checkbox"/> 事業継続 <input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 現状維持 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し・改善 <input type="checkbox"/> 縮小 <hr/> <input type="checkbox"/> 事業廃止・休止 <hr/> <input type="checkbox"/> 事業完了 </p>
事業の方向性に関するコメント	<p>消防団については、団員数の充足をめぐる諸問題及び消防機庫の整備、消防自動車の更新等の経費の問題があり、これらを考えると分団の統廃合による合理化を図らなければならない状況にある。このため、消防関係団体や各地区と調整を図り、消防団を再編する必要がある。</p>

図表4 外部評価結果（事業別）

番 号	4-2
事務事業名	自主防災組織の設立支援
委員の主な意見	<ul style="list-style-type: none"> ・地域でそれぞれが助け合う共助の考え、また、協働の考えからも、自主防災組織の設立支援には力を入れていってほしい。 ・自主防災組織という単独の費目に対して予算をつけていくやり方だけではなく、例えば、地域振興に関する国や県の補助金などをうまく組み合わせながらやっていくことなどを含めて、今後の計画を練っていただきたい。 ・自主防災組織の立ち上げについて、いろいろな前例をみると、NPOだとか、民間企業などが加わりながら、それぞれの地域なりの自主防災組織を立ち上げるということを行っています。八街市も協働のまちづくりということで、各方面と横に繋がっていくことを重視していますので、自主防災組織についても、自治会だけではなくて、横の繋がりを積極的に作り出していくこともしないと、数として増えていかないと思います。
事業の方向性	<p> <input checked="" type="checkbox"/> 事業継続 <input checked="" type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 見直し・改善 <input type="checkbox"/> 縮小 <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <input type="checkbox"/> 事業廃止・休止 <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <input type="checkbox"/> 事業完了 </p>
事業の方向性に関するコメント	<p>地域の実情により規模、内容が異なってくるため、引き続き設立に向けた話し合いを進めるとともに、いろいろな団体が繋がることなど、他にもいろいろなやり方があるうるので、設立支援や、その後の運用資金については、多角的に検討していくということを含め、この動き自体については拡充していってほしい。</p>

図表4 外部評価結果（事業別）

番 号	5
事務事業名	交通安全施設の整備
委員の主な意見	<ul style="list-style-type: none"> ・ 防災課はもっと交通安全対策などのソフト事業に特化すべきで、中途半端にハード事業を行うべきではない。 ・ 交通安全施設の道路台帳への反映を考えると、交通安全施設の整備は道路管理の主管課が行うべきだと思う。 ・ カーブミラーの私道への設置は、踏み込み過ぎている面があり、際限のない話になってしまう。協働の手法により解決できると思う。
事業の方向性	<p> <input checked="" type="checkbox"/> 事業継続 <input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 現状維持 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し・改善 <input type="checkbox"/> 縮小 </p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p> <input type="checkbox"/> 事業廃止・休止 <input type="checkbox"/> 事業完了 </p>
事業の方向性に関するコメント	<p>交通安全施設の整備については、土木技術者が配置されている道路管理の主管課が行うべきであり、また、私道部分への設置については、協働の視点で自分達の問題として解決してもらいたいので、その辺を含めて見直しを検討願いたい。</p>

図表4 外部評価結果（事業別）

番 号	6
事務事業名	防犯灯の設置と適正な維持管理
委員の主な意見	<ul style="list-style-type: none"> ・防犯灯の設置から維持修繕を全て市が行っている状況だが、財政が逼迫している中でこういう状況は続けられないと思います。100%市がやるという考え方は捨てて、補助金等に切り替えて自治会に任せるべき。自らのことは自らやってもらうことにすれば、協働の理念にもあってくる。 ・財政力指数が1を超えているなら、市が全部やることも理解できますが、そうではない中で市が全部やるというのは、そぐわないと思います。こういうところを圧縮しないと、とてもではないけど今の八街市の財政はもたないと思います。 ・自治会等へ移管する手続きが難しいと思いますが、経過措置やインセンティブなど、なんらかの方策を講じて解決していかなければならない。 ・維持管理の負担が軽減できるため、LED化を推進してほしい。
事業の方向性	<p> <input checked="" type="checkbox"/> 事業継続 <input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 見直し・改善 <input checked="" type="checkbox"/> 縮小 </p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p> <input type="checkbox"/> 事業廃止・休止 <input type="checkbox"/> 事業完了 </p>
事業の方向性に関するコメント	<p>今後も防犯灯の設置から維持管理まで、市がすべて負担していくのは無理な状況であるため、自治会等に委ねていくべきであり、市はそこに何割かの補助をしていくという形で枠組みを根本的に変えていく必要がある。</p>

図表4 外部評価結果（事業別）

番 号	7
事務事業名	道路の排水機能の向上、道路の維持補修
委員の主な意見	<ul style="list-style-type: none"> ・豪雨による冠水などの状況は、これまでにいろいろと経験してわかっているはずなので、道路排水計画を、これから立てていくということではいけない。早急にしっかりと計画をたてて、計画的に整備をしていただきたい。 ・地域住民との協働による道路清掃・側溝清掃について、区や自治会において人的な部分で難しい面があるならば、既存の単位ではなく、それ以外の方々から支援を得られるような枠組みなどを検討していただきたい。
事業の方向性	<p> <input checked="" type="checkbox"/> 事業継続 <input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 現状維持 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し・改善 <input type="checkbox"/> 縮小 </p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p> <input type="checkbox"/> 事業廃止・休止 <input type="checkbox"/> 事業完了 </p>
事業の方向性に関するコメント	<p>道路の排水機能の向上については、既にしっかりと計画がなければおかしいので、早急に計画を立てて計画的に整備していただきたい。</p> <p>また、道路の維持補修については、ボランティアの充実を図るなどソフト面での工夫を図る必要がある。</p>

図表4 外部評価結果（事業別）

番 号	8
事務事業名	子育て支援センター機能の充実、児童クラブの充実
委員の主な意見	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援のための備品については、協働という考え方を市民等にも分かってもらうため、備品やそのための寄附を募るといった働き掛けをしていってほしいと思います。 ・利用者に対するヒアリングが足りないと思います。もっと利用する人達の必要とする場を提供することが必要です。聞いて調べて、それに伴って縮小なり拡大なりということが足りないと思いました。 ・もう少し保育ニーズであるとか、子育て支援ニーズというものを幅広く調査したうえで、検討していくことが必要だと思いました。
事業の方向性	<p> <input checked="" type="checkbox"/> 事業継続 <input checked="" type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 見直し・改善 <input type="checkbox"/> 縮小 <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <input type="checkbox"/> 事業廃止・休止 <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <input type="checkbox"/> 事業完了 </p>
事業の方向性に関するコメント	<p>子育て支援センターについては、既存の保育、小規模保育などを含めたネットワークの中で、どのようなニーズがあって、どういう役割を果たしうるのかという検討と共に拡充をしていく必要がある。</p> <p>また、児童クラブについては、ニーズ調査を徹底し、中身を充実させていくことと共に運営管理のあり方を検討されたい。</p> <p>なお、これらの子育て支援策については、人口減少や少子化対策などからも、検討する必要があることから、総合的な検討を願いたい。</p>

図表4 外部評価結果（事業別）

番 号	9
事務事業名	コミュニティ活動への支援、活動拠点の支援、自治組織の見直しと地域自治制度の強化
委員の主な意見	<ul style="list-style-type: none"> ・区や自治会に法人格を持たせた方が良いと思うので、認可地縁団体へ移行できるよう財政支援なども含めて検討してほしい。 ・行政協力員制度と自主組織を一本化していく傾向があり、行政協力員制度的なものは極力やめて、地域と行政が事業を通じて連携し、契約関係のような形で物事を進めていくような流れが、だいぶ出てきています。 ・区という長い歴史があるわけですから、その重みが一方であると共に、自治会単位ではなくて、学区単位ぐらいのまとまりでもって行政との連携を図っていくという新しい流れも出てきています。 ・今までの旧態依然とした枠組みではなくて、例えば、大きな区については何分割かをするというような方向性にもっていく必要もあるのではないかと思います。
事業の方向性	<p> <input checked="" type="checkbox"/> 事業継続 <input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 現状維持 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し・改善 <input type="checkbox"/> 縮小 <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <input type="checkbox"/> 事業廃止・休止 <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <input type="checkbox"/> 事業完了 </p>
事業の方向性に関するコメント	<p>行政連絡員制度的なものを見直していく流れや、コミュニティの枠組みを見直していく流れが出てきているので、コミュニティと行政の関係について、何が八街市にとって一番いいのかを検討願いたい。</p> <p>なお、これらの検討及び推進をするための市の組織（担当部署）についても併せて検討願いたい。</p>

図表4 外部評価結果（事業別）

番 号	10-1、10-2
事務事業名	バス路線の維持の要請、ふれあいバス運行事業の充実
委員の主な意見	<ul style="list-style-type: none"> ・既存のバス路線を維持していくために、バス事業者への補助を続けていくことは、現状ではやむを得ないことだと思います。 ・利用目的とずれた形で、路線バスやコミュニティバスの維持継続をしても、利用者は増えないので、利用ニーズや利用目的がどういうところにあるのか、また、どのような理由で利用しないのか、ということを実格的に調査して検討を行う必要があると思います。 ・ふれあいバスを継続しながらデマンド交通もとなると、経費が多くかかりますので、市民の方々や地域の方々との協働により、デマンドタクシーのような形で実施できないだろうか。 ・地域を巻き込んで、「本当に公共交通をどうするのか」ということを訴えかけていく必要があると思います。どのような環境が一番望ましいのかを考えてもらうことをしていかないと、自分の問題として受け止めてもらえないと思います。
事業の方向性	<p>バス路線の維持の要請（番号：10-1）</p> <p> <input checked="" type="checkbox"/> 事業継続 <input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 見直し・改善 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 事業廃止・休止 <input type="checkbox"/> 事業完了 </p> <hr/> <p>ふれあいバス運行事業の充実（番号：10-2）</p> <p> <input checked="" type="checkbox"/> 事業継続 <input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 現状維持 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し・改善 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 事業廃止・休止 <input type="checkbox"/> 事業完了 </p>
事業の方向性に関するコメント	<p>公共交通は必須のものであるため、バス交通を維持していくことが必要ではあるが、利用ニーズや利用目的等を本格的に調査・検証したうえで、どのような形態にすべきかを検討願いたい。</p> <p>なお、調査については、アンケートだけでなく利用者の実際の声なども拾っていく必要があるほか、数年単位での社会実験なども取り入れる必要があると考えます。</p>

図表4 外部評価結果（事業別）

番 号	1 1
事務事業名	市民との協働、市民参画協働条例の策定
委員の主な意見	<ul style="list-style-type: none"> ・近隣だと八街市だけが協働の専門部署が無いということですが、きちんと専門部署があるところがうまくいっているかという、必ずしもそうではない。協働が浸透していないからといって専門部署を作っても、専門部署だけに協働を押しつけることになってしまっているのが実情です。ただ協働の専門部署を作ればいいという話ではなくて、トータルな意味で協働を考えていかなければならない部分はあると思います。 ・財政的に厳しく専門部署を立ち上げるのが難しい状況であれば、そういった部分にもっと市民の方を活用すればいいという考え方があって、専門部署とまではいなくても、専門グループみたいなものを緩やかに立ち上げていくというのも、工夫の一つだと思います。 ・いろいろな講演会やシンポジウムを開催しているだけではダメだと思います。市のことを想う気持ちは同じなんだということで、市民と職員が同じ目線に立って、侃々諤々の議論をするという場を増やしてほしい。市民も職員も今までの価値観を変えていかなければならないと思います。 ・協働を職員に浸透させるためには、特定の部署に任せるだけでなく、予算要求の段階で協働について事業の代替性をチェックするなど、絶えず協働を意識させる手法が必要だと思います。 ・協働の条例は概念的なものであり、他の条例とは違うので、議会には検討された内容等も十分に説明しておいた方がいいと思います。
事業の方向性	<p>■ 事業継続</p> <p> ■ 拡充 □ 現状維持 □ 見直し・改善 □ 縮小</p> <p>□ 事業廃止・休止</p> <p>□ 事業完了</p>
事業の方向性に関するコメント	<p>協働については、これさえやればうまくいくというものではなくて、いろいろなことを同時並行的にやっていって少しずつ見えてくるという部分があるので、どういうやり方が必要なのか、誰がどういう負担を負うべきなのか、といったことを市民や職員が活発に議論できる場を増やし、多角的に検討、実施していくことによって八街市なりの協働のあり方を見出していく必要がある。</p>

図表4 外部評価結果（事業別）

番 号	1 2
事務事業名	家庭教育の充実、家庭教育の支援
委員の主な意見	<ul style="list-style-type: none"> ・組織上、教育委員会としての立場、子育て支援は他の部局という認識があるかもしれませんが、教育・子育て・地域の結びつきを念頭に置きながら、もう少し事業の工夫、運営の工夫を検討すべきだと思います。 ・家庭教育学級をこのまま続けていくという話でしたが、いろいろな悩みを吸い上げるような形やニーズに合わせることなど、もっと違った形もあるのではないかと思います。 ・家庭教育学級に来てくれないような方に実は問題があると思われるので、教育委員会が主催する家庭教育学級という枠組みだけではなくて、いろいろなところに入口を作って、そういった方が来やすくする。あるいは、来てもらうように促すというような働きかけをしていくことが必要だと思います。
事業の方向性	<p> <input checked="" type="checkbox"/> 事業継続 <input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 現状維持 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し・改善 <input type="checkbox"/> 縮小 <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <input type="checkbox"/> 事業廃止・休止 <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <input type="checkbox"/> 事業完了 </p>
事業の方向性に関するコメント	<p>「家庭教育の充実」と「家庭教育の支援」の二つの事業については、統合を視野に入れながら教育委員会全体として家庭教育のあり方を検討願いたい。同時に事業の中身についても、現状の枠組みを続けていくのがいいのか、もっと違った形に組み替えた方がいいのかといったことや、子育て支援との連携などを多角的に検討願いたい。</p>

図表4 外部評価結果（事業別）

番 号	13
事務事業名	地域に開かれた学校づくりの推進
委員の主な意見	<ul style="list-style-type: none"> ・学校評議員制度というのは、本当に運用実態に差があります。ただ集まってもらって評価をしてもらうだけではなくて、評議員の方々が地域でできることや地域と学校が連携できることを活発に議論し、学校としてできるところを取り入れ、地域で協力できるところは協力していく。また、市民活動グループと連携してできることがあるかもしれない。このような可能性をどんどん引き出して、できる部分をどんどん実践していく。そういう形で運用しているところもあります。 ・いろいろなアイデア・意見を出して、それを議論するだけではなくて、地域に開かれたと言うのですから、地域のいろいろなところにその話を繋げていくということをしないと、連携というのはまずもって生まれません。 ・侃々諤々の議論をして、それを学校あるいは地域に活かす、というような建設的な意見を言い合う場としての学校評議員会になることを求めたい。
事業の方向性	<p> <input checked="" type="checkbox"/> 事業継続 <input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 現状維持 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し・改善 <input type="checkbox"/> 縮小 <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <input type="checkbox"/> 事業廃止・休止 <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <input type="checkbox"/> 事業完了 </p>
事業の方向性に関するコメント	<p>学校評議員制度については、「学校を良く言ってもらいたい。」というような形で運用されていることがあるが、そうではなくて、「学校を地域に開いていく。」この違いをしっかりと理解していただかないと制度が形骸化してしまうので、各学校での学校評議員会の運営にあたっては、制度への理解を徹底し、地域に開かれた学校づくりを推進していただきたい。</p>

6. 外部評価制度に対する提言

①評価対象事務事業の選定について

- ・選定方法、選定事業数等は適当である。
- ・今回は委員5人が選んだ事業からの選定でしたが、そこに庁内がよく見える立場から行財政改革推進室もいくつか選んで、委員の出したものと合わせて、その中から選定するといいいのではと思います。

②事務事業評価シートについて

- ・当該事業が具体的にどのように実施されているのか、さらに説明があると理解しやすいです。
- ・人件費を加えた総事業費の必要性がある。人件費関係の項目追加（従事職員数＝所管課と関係課それぞれの割合）
- ・シートの誤字などが見受けられる。担当以外の上司のチェックが不十分。
- ・他市の状況の比較データが不十分。
- ・評価シートは、たくさん書けばいいというものでもないですが、ほとんど書かれていないものもありました。さまざまな事業があると思いますが、担当課なりの取り組みをできるだけ具体的に記入してもらいたい。
- ・事務事業の点検・評価の項目で、「(1) 社会経済情勢・・・」と「(2) 計画どおり・・・」はその内容が矛盾しているのではないかと思われるので、表現を工夫すべきではないか。

③担当課ヒアリングにおける概要説明、質疑応答について

- ・評価シートに書いてあることだけではなく、その事業の必要性や意義について踏み込んだ説明があるといいです。（他の事業との関連や課題、事業設計にあたって前提となっている根拠、調査結果など）
- ・評価にあたっては、事前に目を通してあるので、記載事項と同じ説明をする必要はなく、要点を簡潔に説明してくれた方がよい。
- ・要領を得た説明もあれば、そうでないものもある。
- ・資料の事前提出が消極的な感じを受ける。
- ・真摯に説明・回答していただいたと思いますが、現状維持にこだわっている回答も見受けられましたので、委員からの質問に一步進んだ回答をお願いしたい。

④ヒアリング・評価について

- ・方向性を導き出すことが主眼であれば、時間配分、評価結果のまとめ方等妥当である。

⑤その他

- ・内容を深く精査しないと、その事業の問題点が明確にならない。
- ・内容を特別会計、補助金、業務委託などの範囲に絞り、公認会計士などの専門家に外部評価することも必要ではないか。そうすれば期間も短縮でき、評価結果が早く出て、事業の見直し・予算措置が効果的になるのではないか。
- ・真の行革という点では、コストパフォーマンスを知る必要があり、事業費の中にはその事業に相当する人件費も含めて判断しないと、明確な評価とはならないと思う。
- ・外部評価制度はとても前向きな取り組みだと思います。外部評価結果が全て取り入れられるとは思いませんが、結果がどのように取り上げられたか、結果がどうなったかを簡単にでも知りたいと思います。